

受験生応援サイト「よくある質問」

オープンキャンパス等でよくある質問と、それに対する回答をまとめました。

一般

Q1. パソコンを購入する必要がありますか。生協からパソコン販売の案内がありましたが、どのようなスペックのパソコンが必要ですか。

A1. 下記に詳しい説明がありますので、そちらをご覧ください。

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/byod/index.html>

Q2. 奈良女子大学の年間スケジュールはどうなっているでしょうか。A2. 令和6年度の年間スケジュールは、本学のWeb 内の「学年暦」

をご覧ください。

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/education/affairs/calendar/index.html>

をご覧ください。

Q3. 転コース、転学科について教えてください。

A3. 転コースは同じ学科内での移動であり、履修可能な最低限履修しておくべき少数の科目が転コース規定で指定されている程度で、比較的容易です。一方、転学科の場合は学科間の移動となり、学科間では専門分野や科目・カリキュラムの構成が大きく異なるため、転コースよりハードルが高くなります。具体的には、無理なく標準修業年限内で卒業・修了できるような履修計画を組んでもらう必要があるという観点から、転籍時までの専門科目の履修状況や成績などを精査して選考を実施することがあります。転コース、転学科のいずれも移動時期は1回生終了時(=2年生開始時)ないし2回生終了時(=3回生開始時)が一般的です(それぞれ、申請の時期も定められています)。当然ながら、転学科・転コースの時期が遅くなるほど、標準修業年限内で卒業・修了するためのハードルは高くなります。

Q4. 実験・実習等で帰宅が遅くなることはありますか。

A4. 実験・実習の場合、科目によっては時間割でいう9・10時限目(～17時50分)まであります。但し、実験・実習の進捗状況によってはそれより遅くなる場合もあります。4回生になり卒業研究に従事するようになると、特に何時から何時までというように決まっているわけではないので、帰宅が

遅くなってしまうこともあります。帰宅時間が極端に遅くなってしまうことを防ぐためには、事前の予習や計画・準備をしっかりと行うことが大切です。

Q5. 教育実習は母校で行うことになるのでしょうか。

A5. 教育実習は基本的には本学の附属中等教育学校で実習を行うことになります。

Q6. 6年一貫教育プログラムについて教えてください。他大学との互換性はあるのですか。

A6. 「6年一貫教育プログラム」は奈良女子大学独自の教育システムとして平成29年度入学生より開始されたプログラムで、学部の4年間と大学院博士前期課程（修士課程）の2年間の教育研究をスムーズに連結することを目的としています。奈良女子大学独自のものですので、他大学大学院と履修単位などの互換性はありません。

6年一貫教育プログラムの募集は、学部3回生後期の時点で行われます。なお、本プログラムに応募できるのは、採用された場合に本学大学院への進学を確約できる者に限ります。選考は、3回生終了時の成績をもとに行われます。

6年一貫教育プログラムに採用された学部学生は、本学の大学院入学試験において、筆記試験を免除されます。また、大学院開講科目のうち、先行履修を認められた科目の中から8単位または10単位までを学部4回生の時点で受講することができ、大学院進学後にそれらの単位を大学院における履修単位とすることが可能です。また、本学の学生寮に入寮している学生は大学院進学後も引き続き入寮が許可されます（通常、大学院進学後は学生寮を退寮しなければなりません）。さらに、6年一貫教育プログラム生のうち特に成績が優秀な学生には、出願にかかる検定料及び入学金相当額の奨学金が大学院進学後に授与されます。

なお、「6年一貫教育プログラム」と類似の制度として、「先行履修プログラム」があります。6年一貫教育プログラムとは異なり、大学院入試における筆記試験の免除はありませんが、先行履修プログラム生は学部4回生の時点で大学院の講義を4単位まで履修することができ、大学院進学後にそれらの単位を大学院における履修単位とすることが可能です。

数物科学科

Q1. 数物科学科でのコース選択は学生の希望通りになりますか。

A1. 各コースへの配属については、学生の希望通りに配属されています。

Q2. 私は数物科学科で数学を学びたいのですが、高校で物理ではなく生物を学んでおり、物理の知識がないのですが大丈夫でしょうか。

A2. 数学を専攻するのに、高校物理の履修は前提としていませんので、心配はありません。

Q3. 数物連携コースでは、「数学」と「物理」の2つの専門分野を学ぶということですが、

「数学」と「物理」の二つの学問にまたがって学んで、どちらも中途半端になることはないのですか。

A3. 数別連携コースでは、数学または物理のどちらかに重点を置いて、それに加えてもう一方の専門の考え方を取り入れた形で履修を行っています。数学と物理学は、実はお互いの領域がかなり重なり合い、互いに強く影響しあっていますし、この「学際領域」の研究は注目を集めています。数物連携コースは、特にこの2分野をまたいだ専門知識を身に着けた人材を育成することを目的としたコースです。

化学生物環境学科

Q1. 化学生物環境学科の研究室への配属方法は成績順ですか。希望するところに配属してもらえますか。

A1. 研究室の配属方法はコースによって違います。

化学コース：研究室への配属は学生の希望を優先します。ただし、研究室には配属定員があります。

生物科学コース：研究室への配属は学生の希望に基づき、学生間での相談を通じた人数調整を行って決定します。希望者数が研究室への受入れ可能人数を上回った場合のみ、成績上位者を優先して配属します。

環境科学コース：希望者が受け入れ人数を上回ったときは学生間で調整し、調整できなかったときに成績上位者を優先して配属します。

Q2. 環境科学コースではプログラミングの授業があると思いますが、パソコン等の機器を使うのが得意ではなく不安なのですが大丈夫でしょうか。

A2. 環境科学コースのプログラミングの授業はほとんどの学生にとっては初めての部分が多く、基礎から説明していきます。授業等でわからないことなどがあれば遠慮せず質問してください。丁寧に説明します。

Q3. 生物科学コースを志望しています。高校では基礎生物のみを学んだだけであり、物理と化学選択で受験しておりますが、問題ありませんか。

A3. 生物科学コースでは、物理と化学での受験者は結構います。生物科学を学ぶ際にも、基礎となる物理と化学の知識や考え方は必要です。また、生物科学コースにおける教育では、高校で生物学を本格的に学んでこなかった学生がいることにも配慮した講義を行っておりますので、問題はありません。